

Title	日本発！ 「オーラルヒストリー図書館」実現に向けて - 加賀市立図書館プロジェクト -
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ, 14
Issue Date	2008-03
Type	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/4866
Rights	
Description	



今回、加賀市が JAIST の協力を得て着手しようとしているオーラルヒストリー構想は、地域の知的資産のアーカイブの構築も視野に入れたものです。本プロジェクトにとってまたとない先行事例であると言えるのが、多摩ニュータウンのオーラルヒストリーの取り組みです。

昭和 30 年代に立ち上げられた多摩ニュータウンでは現在、中央大学の協力を得て、オーラルヒストリーの作成作業を進めています。これによってニュータウンの歴史がより明瞭化し、しっかりとした骨格が付与されることが期待されています。

単なる工事に関する資料類からは人の声が聞こえません。まちの歴史に血を通わせるものは、実際にそこに住む者の肉声です。その意味でオーラルヒストリーは歴史に魂を吹き込む作業であると言えます。また住民が往時の希少資料を持ち合わせている場合があり、それらを提供してもらうことで文書資料の充実も期待できます。オーラルヒストリーは声の記録のみならず、周辺の諸状況を明らかにする副次的効用があるのです。

今後の展望

今後は実際のオーラルヒストリーの作成に向け、作成に関わるスタッフの勉強会等を企画していく予定です。JAIST と加賀市は、住民が参加してこそそのプロジェクトであるという考え方に立ち、大学と連携しつつ加賀市民が主導してオーラルヒストリーを作成していける仕組みづくりを進めます。

■ 加賀市「オーラルヒストリー図書館」構想実現へのステップ

STEP 1

- ・オーラルヒストリーとは何かを市民に知ってもらうためのシンポジウムの開催
- ・市立図書館スタッフ・関係者・市民による「加賀オーラルヒストリー研究会(仮称)」の設立

STEP 2

- ・「加賀オーラルヒストリー研究会(仮称)」会員相互間で実際に「オーラルヒストリー作成」を試行する
- ・JAIST：試験的にオーラルヒストリー候補対象者の聞き取りを実施する

STEP 3

- ・試行的に作成したオーラルヒストリーをドキュメント、映像媒体の形式で市立図書館に収蔵する
- ・市立図書館内にオーラルヒストリー記録のコーナーを設ける

JAIST 社会イノベーション・シリーズ No.14

発行 2008年3月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・科学技術開発戦略センター
〒923-1292 石川県能美市旭台 1-1 知識科学研究科棟Ⅱ7階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ

TEL : 0761-51-1839 FAX : 0761-51-1767 E-mail : coe-secr@jaist.ac.jp

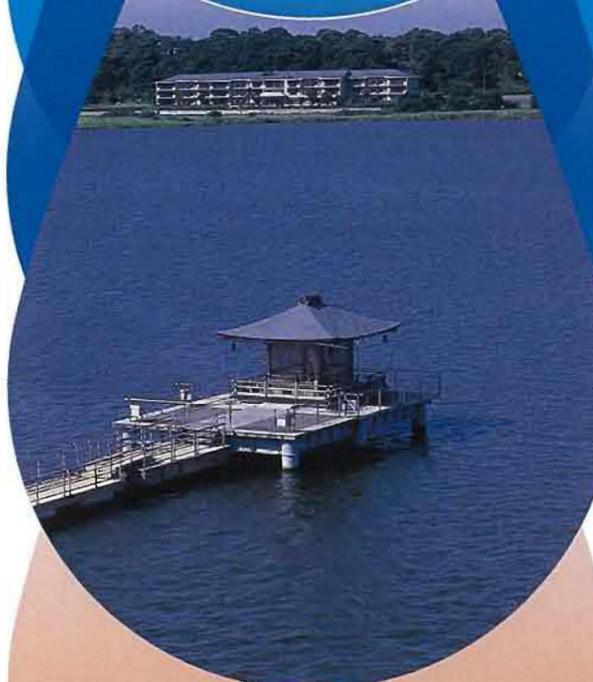
本誌は、文部科学省 21 世紀 COE プログラム「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」の助成を得て発行しております。

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES

社会イノベーション・シリーズ 14

日本初！ 「オーラルヒストリー図書館」 実現に向けて

— 加賀市立図書館プロジェクト —



書物からは聞こえてこない、生きた歴史の「声」を聞きたい。世界に名を知られる有名人より、地域の誰かが知っている「あの人」の話を聞きたい。

あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、オーラルヒストリー (Oral history) とは、歴史研究のために関係者から直接話を聞き取り、記録としてまとめること。こうした記録を集め、公開するのが「オーラルヒストリー図書館」です。

学官連携協定を結ぶ JAIST と加賀市は、日本でもほとんど例のない「オーラルヒストリー図書館」設立に向けた取り組みに乗り出しています。日本で唯一の個性あふれる図書館の実現に期待が高まっています！

LIBRARY CITY KAGA PROJECT

オンリーワンの図書館実現に向けて、学官連携プロジェクトがスタートしています。

加賀市は平成17年10月1日、旧加賀市と旧山中町が合併して新市としてスタートしました。地理的には、越前加賀海岸国定公園に指定されている海岸線を有しており、東には霊峰白山、南には大日山をはじめとする自然豊かな山々が連なり、海と山に恵まれた景勝地です。県下でも有数の温泉地帯として知られ、加賀温泉郷の四つの温泉地のうち、山代温泉、片山津温泉、山中温泉が加賀市にあります。九谷焼、漆器などの伝統工芸も活発で、「石川県九谷焼美術館」、「九谷焼窯跡展示館」、「北前船の里資料館」、「中谷宇吉郎・雪の科学館」、「深田久弥・山の文化館」、「加賀アートギャラリー」等の文化施設が充実しています。歴史的には縄文時代早期には既に人間の居住の形跡が遺されています。古代には「えめのくに」と呼ばれており、大化の改新の後、越前国に属し、弘仁14年(823年)に加賀国となりました。源平の争乱時の篠原古戦場などの史跡も見られます。16世紀末以降、大聖寺を中心とする体制が形成され、寛永16年(1639年)前田利治が入封して以降230年間、十万石の城下町として発展しました。なお大聖寺地区は今も城下町らしい町並みが残る地域で、昭和50年代までは中心市街地として繁栄していましたが、徐々に衰退、高齢世帯の増加と家屋の老朽化の進行によって空き家が増加し、古い町並み景観やコミュニティの維持が危うくなっています。そこで加賀市では、大聖寺地区の歴史的景観の維持とまちなかにおける良好な居住環境の実現に向けた「町屋の再生方策」について取り組みを開始しています。このように市が集積している豊かな歴史遺産、厚みある文化遺産に着目し、多くの郷土資料の収集に努めてきました。今回更に遺産の担い手である「人」が蓄積してきた知的資産を図書館に収蔵しようと、学官連携協定を結ぶJAISTと加賀市(大幸甚市長)は、2006年6月より、学官連携の「オーラルヒストリー図書館」実現に向けた取り組みを開始しています。

JAISTではこれまで先行事例の調査を実施するとともに、学外協力者として国内でもオーラルヒストリー研究の草分けでもある東京大学先端科学技術研究センターの御厨貴教授に協力を依頼しました。

「オーラルヒストリー図書館」を実現するためには、まずオーラルヒストリーという一般には耳なれない言葉の

意味とその目的を地域住民によく理解してもらうことが前提になります。そのためJAISTでは、御厨教授を招いて地域オーラルヒストリー創造のための啓発シンポジウムを計画しています。

本プロジェクトを地域に根ざしたものにするためには、市民を主役にしたプロジェクトの推進母体を構築することが重要なポイントとなります。加賀市には郷土史に興味がある住民も多いことから、近く、市立図書館スタッフ、関係者、市民から成る加賀オーラルヒストリー研究会(仮称)が発足する予定です。

その次の段階として、御厨教授も指摘するように、円滑なオーラルヒストリー作成のため聞き取りマニュアルを作成し、事前にメンバー同士が試行的に聞き取り作業を行ってみることも必要です。

加賀市には連綿と受け継がれてきた数多くの伝統文化があり、その担い手がいます。その意味で話を聞く対象の広がりが大きく、どこから手をつけていこうかが重要なポイントとなります。聞き取りを始めるにあたって好適な人物は、まちの誰もが認める人物、加賀市ならではの著名人が想定できます。たとえば地域の産業、経済、文化、行政、NPO活動に焦点を当て、「九谷焼、山中漆器等の関係者」「古九谷研究者」「加賀温泉開発関係者」「市政関係者」「郷土出身の文化人(北大路魯山人が活動拠点とした「白銀屋」や「あらや」等の経営者)」が挙げられます。

全国を見渡しても、自治体によるオーラルヒストリー図書館の設立は例がありません。本プロジェクトが実現すれば、加賀市に日本初の市立のオーラルヒストリー図書館が誕生することになります。

■ オーラルヒストリーとは

オーラルヒストリー(Oral history)とは、口述記録の作成・編集による知的資産の一形態。米国コロンビア大学では1948年世界初のオーラルヒストリー専門研究図書館を設立している。またハーバード大学では、オーラルヒストリーのアーカイブを歴史研究に活用していることでも知られている。しかし我が国での歴史は極めて浅く、特に地域連携に資するオーラルヒストリーアーカイブの設立は、国内でもほとんど例がない(数少ない実例としてサントリー文化財団の支援で沖縄学オーラルヒストリー図書館の設立が進められている)。



山中漆器



山中温泉鶴仙峡



中谷宇吉郎・雪の科学館

Interview

加賀市 大幸 甚 市長



「知的資源を未来に」

現在加賀市が将来を見据えて取り組んでいる重要施策は「自然」と「文化」です。そしてその足跡を後世に残していく記録が最も大切な事だと思います。言いかえれば、その記録を残す事が「書物」の役割と考え、これを施策の中に取り入れたいと思っております。それは次のような想いからです。

まず「自然」についてですが、私は自然の中に真の自由があると考えています。山や川、草木、そして獣や鳥や虫や魚。自然や自然界に棲むものが生きていることそのものが真の自由です。小さい頃から自然を学ぶことによって、自然の大切さを思う気持ちが育まれます。市ではすでに市内の潜在植生調査を終え、その調査から得られた種苗の育成を推進しており、自然観察指導員の招聘も進めています。

次に「書物」についてですが、これは次世代の地域の担い手を育成する上で何よりも重要な要素です。加賀市立図書館としては、大聖寺地区に中央図書館が、山中地区に山中図書館があります。中央図書館では蔵書数24万冊を数え、大聖寺藩の藩校(時習館等)にあった書籍である聖藩文庫(10,197冊)等のユニークな知的リソースが存在します。

私たちはこうした地域の自然などの資産や、図書館に集積されている知的リソースを活かしていくための

鍵は、「人」にあると考えています。こうした人材を、我々は仮に「インタープリター」と称していますが、このインタープリターは、「自然・文化・歴史の保全と継続的な活用を担う」、「次世代への確かな継承を實踐する」、「訪問者に適切な案内をし、地域の自然・歴史・文化と触れ合う機会を設ける」等、地域に関わる専門知識を地域の若手世代や地域外の人々に適切に伝達するスキルを有する人材です。

インタープリターは施設や設備等のハード以上に重要な役割を果たすと言えます。今加賀市ではインタープリターの育成や招聘に力を入れています。JAISTと連携する中で図書館プロジェクトにも積極的に活用していくほか、保育園や幼稚園における自然教室の運営や、観光プログラムの運用、市内での観光マイスター制度等の担い手としてインタープリターを構想しています。

こうした活動は、現世代による未来世代への知的リソースの提供であり、現世代による未来世代への文化的責務なのです。